

メディアセンターの主な出来事（平成27年度）

メディアセンター本部

1. 山中資料センター2号棟の竣工および白楽サテライト・ライブラリーからの資料移転

2015年9月末に山中資料センター2号棟が竣工し、同年10月から2016年3月末にかけて、白楽サテライト・ライブラリーより約50万冊の資料および書架を移転した。これに伴い、1999年3月に開設した白楽サテライト・ライブラリーの運用は終了した。

2. 大学図書館国際フォーラムの開催

OCLC Research Library Partnershipの協力のもと2016年2月26日に「研究支援と図書館 ～研究サイクルを取り巻く“混沌”に図書館はどう向き合うか～」と題するフォーラム（2回目）を開催した。国内外の講師による講演、パネルディスカッションを行い、大学関係者を中心に110名の参加者を得た。

3. 第12回メディアセンターセンター研修会の開催

人事部の部門・ブロック研修に採択され、11月20日「大学アーカイブズと図書館」をテーマとして開催した。メディアセンター以外から5名を含め97名が参加した。

三田メディアセンター

1. 山中資料センター2号棟への資料移動

年度末に予定された白楽サテライトライブラリーの廃止に伴い、10月から資料の利用を原則的に停止し、一定の準備作業の後、白楽配架の蔵書約45万冊を代替施設として新設された山中資料センター2号棟へ移動した。

2. 図書館旧館免震工事による第一書庫の閉鎖

第一書庫の閉鎖に伴い、配架されていた蔵書約15万冊を、2月中旬までに研究室地下書庫、女子高別館、綱町別館、東京書庫倉庫（川越）に移動し、新たに取り寄せサービスを開始した。

3. 貸出冊数上限の撤廃

遠隔地への蔵書の移動によって利用しにくい資料群が増加したため、12月3日から貸出冊数制限を撤廃した。

4. 貴重書活用授業

貴重書を学生にも授業で利用してもらう「貴重書活用授業」のプロモーションを昨年度より強化した結果、今年度は年間20件、参加総数263名（教員含む）となった。

5. 日曜日開館の再開

前年度の利用者ニーズの把握の結果として、11月と12月に日曜日開館を都合7日間試行実施した。

6. 施設の改善

- ・「旧第二選書事務室」を「多目的学習室」に用途変更し、新たな利用空間とした。
- ・3階雑誌室のパーティションを撤去し、新聞のバックナンバー閲覧エリアとして整備した。

7. グーテンベルク聖書慶應本の展示

展示室に於いて12/2-12/18の会期で開催された文学部創設125年記念展示「モノがたる文学部 資料にみる人文学研究」に、国宝秋草文壺とならんで、グーテンベルク42行聖書慶應本を、12/9-12/12の期間出品した。

8. 出版物

- ・「活字文化の真髄 - 日本の古活字版と西洋初期印刷本 -」（第27回慶應義塾図書館貴重書展示会目録）
- ・「荒俣宏旧蔵博物誌コレクション目録」（文献シリーズNo.33）
- ・「知識の花弁—三田メディアセンターだより」No.5（2015.4）、No.6（2015.10）

9. 主な寄贈

- ・A Collection of 10 leaves formerly owned Otto Ege [Italy, Netherlands, France]（13-15th

- century) Otto Ege 旧蔵写本零葉10点
- ・ Books of Hours (1480-90) 彩飾写本時禱書
 - ・ Centum ac Quinquaginta Psalmi Davidici (1518)
 - ・ Missale iuxta ritum Ecclesie Romane (1555)
 - ・ Les illustres observations du Seigneurur Gabriel Syneon... (1558)
 - ・ Liber Veritatis / Claude Lorraine (1777)
 - ・ Syr Ysambrace / F.S.Ellis ed. (1897)
 - ・ The Bestiary / M.R.James (1928)
- 以上「戦略的研究基盤形成支援事業 (EIRI プロジェクト) より
- ・ Birds of America/ by James Auduborn [ファクシミリ版] (2014)
大日本印刷 (株) 北島義俊氏より

日吉メディアセンター

1. 情報リテラシー教育ならびに学生との協働

- (1) 2014年度から文学部教員と準備を進めてきた文学部設置科目「基礎情報処理Ⅱ (レポートの書き方)」が秋学期に開講され、全14回の授業を協働で担当した。
- (2) 学生ボランティア団体「図書館フレンズ」を組織し、学生主体の選書や展示活動を展開した。
- (3) 学習相談公式キャラクターとして「びあくろう」「コノハちゃん」を採用した。

2. グローバル対応

- (1) 英語版Webページの見直し、English Library Guide作成、各種帳票の英語化を行った。
- (2) 協生館図書室で、留学生を対象とした英語によるデータベース講習会を実施した。

3. 館内施設の改修

- (1) 地下AVホールに4Kディスプレイ (55インチ×4面) を設置するとともに録画／録音／配信システムを導入した。
- (2) グループ学習室カーペット貼替と手摺塗装、館内の扉 (21枚) 塗装、館内マップ貼替、掲

示板 (2枚) 新設、外壁サッシ周り漏水補修等の改修や工事を行った。

4. 協生館図書室

- (1) 土曜日の閉室時刻を18時から23時に変更したことで、前年度土曜日と比較し入室者が43%増加した。また返却用ブックポストを新設した。
- (2) 1999年以前刊行の雑誌のうち、電子ジャーナルがあり、かつ他キャンパスに所蔵があるものを除籍し、それ以外を保存書庫に移動した。

5. その他のトピック

- (1) 日吉メディアセンターに関する諸問題を教員と共有するために、日吉メディアセンター懇談会 (非公式) を開催した。
- (2) 日吉図書館・協生館図書室のウェブページ (日・英) をレスポンスデザイン化した (3月)。
- (3) 夏・春休校期間中に、受験生を対象とした日吉図書館オープンライブラリーを実施した。
- (4) 日吉図書館開館30年を記念して、開館当時の世相を振り返る展示、映画鑑賞会、図書館川柳コンテストを実施した。

信濃町メディアセンター

1. 電子資源の財源確保およびコンテンツ拡充

- (1) 図書予算の増額
契約価格が高騰する電子資源の財源として図書予算増額について教授会に署名を依頼した。教授会メンバーの9割近くを占める106名から署名が集まり、メディアセンター担当理事及び財務担当理事の理解を得て、平成28年度図書予算の増額申請 (3千5百万円) が認められた。
- (2) 国文学研究資料館が中心となっている日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業へ慶應義塾大学として参加し、国内有数の古医書コレクション富士川文庫のデータ (約800点1,700冊) を提供した。

2. Webサイトリニューアル

2015年12月にホームページを英語版も含め全面リニューアル公開した。レスポンスWebデザインを採用し、コンテンツ管理の標準化に努め、デザインを一新した。

3. 利用者層の多様化に対応した各種講座の開催

多様な利用者層の要望に応じるため、曜日・時間帯・場所に変化をつけた各種講座を実施した。新企画「電子リソースミニ講座」の定期開催を始めた。

4. 学術情報セミナーの開催

「国際研究者識別子ORCID—いま研究者が知らなければいけないこと」をテーマに、学術情報コミュニティの新しい動きを紹介した。

5. 館内整備

- (1) 椅子18脚の交換（地下閲覧室）
- (2) LED照明への切り替え（地下閲覧室・書庫、グループ学習室、セミナー室）

理工学メディアセンター

1. ラーニングサポート開始

ピアサポートの取り組みとして、2015年5月より理工学研究科の大学院生によるラーニングサポートを開始した。様々な分野の学習相談に対応できるように、複数の学科から採用した5名のスタッフが学習相談に当たり、年間で31件の相談があった。

2. 館内整備

安全面の強化と業務効率の向上を目指し、2015年8月に創想館1階の貸出・返却カウンターをリニューアルした。

2016年3月より、本館2階書架への側板取付けを開始した。これにより配置案内を見やすく掲示することができるようになった。工事は段階的に行い、2016年度中にすべての書架に側板を設置する。

3. イベント開催

2015年7月8日にサイエンスカフェを開催した。

講演は枇々木則雄教授による「お金を科学する～金融工学への招待」で、34名が参加した。

また、10月28日にはビブリオバトルを開催した。学生および教職員計5名がバトル（発表者）として参加し、約20名が観覧した。

4. 資料移動と再配置

2015年9月に学位論文および科研費報告書を別館から本館2階に移動した。

製本雑誌（1981～2010年）のうち電子ジャーナルの恒久アクセス権があるもの約18,000冊を次年度中に山中資料センターに移動することになり、その準備として重複除籍やバーコード貼付を実施し、移動対象資料を別館に集約した。

5. その他トピック

- ・2016年2月にCoLibriを導入し、カバー付き図書の装備を、糊付ブックコートから糊を使わないフィルムタイプのものに変更した。
- ・2016年3月に利用案内パンフレット日本語版を全面改訂した。

湘南藤沢メディアセンター

1. サービス・企画

① Bloombergデータベースのサービス

これまでITC管轄で、△館で提供されていたBloombergは、端末をメディアセンター2階のデータベース検索コーナーに移設、メディアセンター管轄とし、11月から正式にサービスを開始した。

② 大型の電子書籍パッケージの導入

GIGAプログラムの拡充などによりキャンパスにおける学習用洋図書コレクションの充実が求められていることに対応するため、約12万冊の比較的新しい電子書籍が利用できるパッケージ、Academic Complete with DASH!を導入した。

③ SFC25周年を記念して2つの企画を実施した。

- A) SFC25周年記念「写真で振り返る湘南藤沢キャンパスの25年」展示

SFC開設25周年式典に合わせ、9/24(木)～10/17(土)に開催した。展示場所は1階オープンスペースだが、10/10(土)の式典当日はθ館ギャラリーに展示した。

- B) 「SFCが歩んだ25年を世界の出来事で振り返る」ポスターコンテスト

SFC開設(1990年)から25年間に世界で起きた出来事から、各自テーマを設定し、メディアセンター指定のデータベースを使って1枚のポスターを作成するもの。応募作品を館内に展示し、利用者の投票と審査委員による審査で各賞を決定し、賞品を授与した。関連するデータベースセミナーも開催した。

- ④ そのほか、以下のような初めての企画を実施した。

- A) 「メディア内でカモを探せ！」

2015年4月の間、オリエンテーリングの要領で館内を回ってクイズに答えながらメディアセンターのサービスを体感してもらった。同時企画として“Twitter”の写真付き投稿のうち特に反響の大きかったものの紹介展示も行った。

- B) 「フィルミオバトル」

2015年5月20日(水)に開催した。ピブリオバトルの映画版である。

- C) 「本の福袋」

2015年7月14日(火)～7月21日(火)に開催した。テーマを決めて学生・教職員が選んだ本(2-5冊)を中が見えない袋に入れ、袋ごと借りてもらうもの。

2. マルチメディア環境の充実

- ① ファブスペース

2015年4月から新機材を導入した(新型3Dプリンタ、展示型(デルタ型)3Dプリンタ、職業用ミシン(直線縫い)、レーザーカッター、ハンディ3Dスキャナ)。また、利用促進のための「女子ファブワークショップ」や「へぼコン」(へぼいロボットのコンテスト)などを開催した。

- ② 教室改修

夏休み中にSFCの最大規模教室であるθ館のAV設備改修工事を行った。9/29(火)から通常授業開始。その後、一部に不具合が見つかり修正した。10/10のSFC25周年記念式典本番では問題なかった。

3. 看護医療学図書室関連

職員が委員を務めている慶應看護100年史編集委員会の関係で、紅梅会(慶應看護同窓会)が保管していた戦前の卒業アルバムを図書室で保管することになった。

薬学メディアセンター

1. 利用者サービス

- ・有効期限が設定されていなかった共立薬科大学卒業生図書利用券について、慶應義塾大学薬学部卒業生への対応と同じく毎年度末に期限を設定することとした。(4月)
- ・芝共立ITCとの共催で、教員・大学院生を対象とした文献管理・論文作成支援ソフトENDNOTEの利用説明会を開催した。(8月)
- ・掲示スペースを整備し、統一感のある掲示物のデザインの運用を開始した。(8月)
- ・PC版Webサイトをリニューアルした。(8月)
- ・携帯版KOSMOSの廃止を受けて、携帯版サイトの運用を終了した。(12月)

2. 蔵書管理

- ・書庫スペースの狭隘化対策と予算の有効利用のため、他地区でも継続購入している継続図書の利用状況を調べ、岩波新書(新赤版)の継続購入を中止した。(8月)
- ・書庫縮小のため2014年12月に搬出した雑誌が山中資料センター2号棟に配架され、利用を再開した。(2月)
- ・国立情報学研究所(NII)の学術雑誌公開支援事業終了に伴い、共立薬科大学図書館が登録した「共立薬科大学研究年報」1(1955)～46(2001)の全文データのデジタルファイルを取得した。

保存と公開については関係部署と調整を進める
予定。(3月)

- ・選書方針を文書化した。(3月)

3. 設備

- ・南側入口に教員・大学院生の閉館時間帯入館
対応のための人感センサー付照明を設置した。
(3月)

4. 地域貢献

- ・港区立図書館から講演企画への講師紹介の依頼
を受け、山浦 克典 薬学部教授兼附属薬局長
の登壇を仲介した。(7月31日「高齢者の病気
と薬について」 於：港区立高輪図書館)

5. その他

- ・日本薬学図書館協議会関東地区研究会世話館退
任 (7月)